

「怖い夜道」には、理由がある。

「暗い街」は、なぜ怖い？ 日が暮れるのが早くなる秋。 — みんなの「なんとなく怖い」から考える、これからの街の安心 —

秋が深まり、少しずつ日が暮れる時間が早くなる10月。

夏にはまだ明るかった帰宅時間も、気づけばすっかり暗くなり、いつも歩いている道なのに「なんとなく怖い」「ここは一人で歩きたくない」と感じる場合があります。

街灯が少ない道。人通りのない住宅街。夜の公園や駐車場。先の見えない曲がり角——。昼間は何とも思わない場所なのに、なぜ夜になると不安を感じるのでしょうか。

そこでSecualでは、SNSでの声を通じて、生活者が実際に感じている「夜道の不安」に目を向けてみました。

みんなが感じている「夜道の不安」

SNSで見つけた、夜道の「なんとなく怖い」

“街灯のない道は怖いです。”

“変な音が聞こえた時！”

“人通りの少ない夜道で、人とすれ違う時はかなり警戒する。”
@radiant_renka

“人通りの無い夜道で、帰り道が同じなのか不明な人が後ろを歩いているのがまじで怖い。”
@0VnmgGpkk14427

“後ろから足音が聞こえて、早足にしたら後ろもそうなる……。”
@yuka_bn02

※InstagramおよびXに寄せられた投稿・コメントより、掲載許諾をいただいた内容を掲載しています。

寄せられた声を見てみると、夜道で感じる不安は一つではありません。暗さや人通りだけでなく、音や人の気配、周囲の様子が見えにくい場所など、ふとした環境の変化が「少し怖い」と感じるきっかけになっています。共通しているのは、「**周囲で何が起きているのか分からない**」という不安。見えない、気配が分からない、何かあっても気づいてもらえるか分からない——。そんな状況が、いつもの道を「少し怖い場所」に変えることがあります。

では、安心して歩ける街には、何が必要なのでしょう。

国土交通省や警察庁が進める「防犯まちづくり」でも、道路や公園、駐車場などの公共空間では、夜間の「**明るさ**」だけでなく、「**見通し**」や「**周囲からの目が届く環境**」が重視されています。街灯があっても植栽や建物によって死角が生まれていたり、周囲から見えにくかったりすれば、不安を感じる場所になり得ます。

つまり、夜道の安心は、「明るい」だけで決まるものではありません。周囲を見渡せること、人の目が届くことなど、さまざまな環境が重なってつくられています。

防犯まちづくりで重視されるポイント



※警察庁・国土交通省「防犯まちづくり」に関する資料をもとに作成



元警視庁公安部 / 防犯コンサルタント 松丸俊彦

「暗い街」をなんとなく怖いと感じるその感覚を、単なる思い込みと片付けないでください。暗さに加え、「見通しが悪い」「人目がない」などの条件が重なると、不安はさらに高まります。それは防衛本能が発する重要なシグナルです。「なんとなく怖い」という感覚を大切に、明るく人目のある道を選ぶなど、具体的な防犯行動につなげていきましょう。

「明るい」だけではなく、「気づける」街へ

夜道の安心を考えるうえで、街を明るくし、見通しを確保することは大切です。しかし、街の中で起きるすべての変化を、人の目だけで見守り続けることはできません。

だからこそSecualが考えるのは、街のさまざまな場所から情報を捉え、**異変に「気づける」環境をつくること**です。

照明・カメラ・センサー・通信。それぞれを単独の設備として考えるのではなく、街の環境や課題に合わせて組み合わせることで、人の目だけに頼らない安心の仕組みをつくることができます。

Secualでできること



街は、すべて同じ条件でつくられているわけではありません。

これから新しくつくられる街なら、街づくりの段階から安心の仕組みを組み込む。一方、すでに人が暮らしている街なら、今ある街並みや設備を活かしながら、必要な機能を加えていく。

Secualでは、街の状況に合わせて、どちらのアプローチにも対応しています。

これからつくる街

まちづくりの段階から安心を組み込む



埼玉県「朝霞リードタウン」 / Secual Smart Pole

今ある街

既存の環境を活かして安心をアップデート



山梨県「甲府駅」 / Secual Smart Pod

方法は違っても、目指すのは同じ。「異変に気づける街」へ。

「街灯が少なくて怖い」「人通りがなくなると不安」――。そんな一人ひとりが感じる小さな不安は、より安心できる街を考えるための大切な気づきでもあります。

大切なのは、犯罪や事故が起きてから対策するだけではなく、日々の暮らしの中にある「ここは少し不安」という声に目を向け、街の環境そのものをより安心できるものへ変えていくこと。

――Secualはこれからも、テクノロジーを活用して街の状況を捉え、異変に気づき、必要な情報をつなぐことで、誰もが安心して暮らせる街づくりに取り組んでまいります。